

避難所での犠牲者0を目指して ～避難所運営体制の構築～



徳島県鳴門市自主防災会連絡協議会
会長 小川 泰範

1 はじめに

鳴門市は、四国の東北端に位置し、四国の玄関口です。鳴門海峡には、現在、世界遺産登録を目指している渦潮を有し、市西部の大麻町には国の特別天然記念物であるコウノトリが営巣し、雛が誕生し巣立っています。

一方、災害の懸念としては、市内を東西に日本一の活断層、中央構造線が走り、また、近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震により大規模な被害が想定されています。

2 鳴門市自主防災会連絡協議会

当会は、市内各地域の42の自主防災会によって構成されています。協議会は平成19年に発足しました。以降、各地区で精力的に防災訓練を実施しています。

3 避難所運営は自主防災会を中心に

私が今一番重要と考えているのが、避難所運営です。従来の大災害では、せっかく助かった命が避難所で失われてしまう事例が多く発生しております。

平成29年に、市の避難所運営マニュアルの完成を受けて、「避難所運営の主となるのは自主防災会」ということを市長に提案いたしました。

地区別に避難者の配置もでき、当然避難者のこともよくわかります。要配慮者も自分のことがわかってくれる人ならば安心さ

れます。市長も納得の様子でした。

実際に避難所運営マニュアルを使った訓練を実施したいと考え、昨年、私の地元の公民館で実施しました。訓練には、より多くの世代の方にも参加していただきたかったので、戦隊ヒーローショーも合わせて行いました。

訓練には地元住民の方、婦人会、幼稚園児と保護者、自主防災会、市職員、警察等に参加していただきました。訓練は、緊急地震速報の訓練放送を合図に、参加者が避難所の公民館へ避難開始、自主防災会で運営本部を開設しマニュアルに基づき、総務班、情報広報班、施設管理班、食料物資班、救護班、衛生班の班長を指名し、役割ごとに対応を行います。当日参加された方には、負傷者、要配慮者、妊婦等の役割もお願いしました。また、婦人会による炊き出しも実施しました。

避難所スペースの間仕切りには簡易な段ボールを使用し、各班の連絡にはデジタル無線機を使用しました。こう書くとスムーズに行われた感じがしますが実際には、「てんやわんや」の訓練でした。実際の災害時もスムーズに運営が行えるものではないと思うので、どんなことが起こり、何が重要となるのか考え、準備しておくことが重要だと思います。見学された市長も「このような備えが大事で、有意義な訓練です」とのことでした。

4 避難所での犠牲者0を目指して

公民館での訓練の後、徳島県から「県の

モデル事業として避難所運営訓練をしませんか」とのお話をいただき、地域の防災力の向上のため快諾することにいたしました。この訓練は体育館を使用することもあり、地元の中学校の生徒さんに参加いただき避難所設置や避難所運営本部の各班の役割を手伝っていただくことにしました。

また、訓練においては県の補助を活用し、避難所で使用するパーテーションを導入しました。このパーテーションは高さが180センチあり、まわりの視線も気にならず、よりプライベートを確保でき、ストレス緩和につながると思います。今回、初めて使用するので中学生も交えて事前の打ち合わせもしました。

訓練当日は、自主防災会、婦人会、中学生、市職員、警察そして地元住民で約200名の方に参加いただき、事前の打ち合わせの効果もあり、パーテーションの設置も体育館全面にスムーズに設営することができました。

また、避難所での問題がトイレです。携帯トイレの備えさえあれば、我慢による体調不良も軽減され、大勢の方が助かります。

今回の訓練で感じたのは、備蓄資機材も、より効果のあるものを備える必要があるということです。そのためには常に最新の情報を知り、知識を深めること、また訓練で備蓄資機材を実際に使用し、どういうものか感じてみるのが重要ではないでしょうか。

私は早速この最新のパーテーションについて市内の避難所すべてに備えてほしい旨を市に伝えました。これが実現できれば避難所環境の向上につながり、「避難所での犠牲者0」に大きく近づくのではと考えています。

災害発生当初のことに備えることも大事

ですが、発生後に守るべき命を確実に守る備えもとても大切だと思います。私はこれからも「避難所での犠牲者0」という目標に向かい取り組んでいきます。



段ボールを使用した避難所スペースの間仕切り



避難所運営訓練



設営には中学生も参加